



発達する環境

- 思わず関わりたい環境 & 戸惑の生まれる環境
物（自然物・人工物・道具・玩具・遊具等）
人（子・先生・親・祖父母・親戚・縁者等）
出来事（ごっこあそび・作る・描く・対立あそび・行事等）

発達を促す指導（関わり）

- 快（面白さ）と不快（戸惑い）に揺れる心を
受け止め 意味を 置き返す 人の環境
先生個々の子ども理解の違い⇔徳山中央幼稚園の
育ての方向との両方を合わせ、個の発達を支える指導

あそびは 身勝手を抑制する

あそびは、したい（身勝手）とすべき（抑制）の行き来を促す学習活動です。何かを作りたい折り紙は、両手を角へ制御すべきを促します。同時に折り紙全体が、動かないよう自己コントロールすべき『手と脳』の連動の合わせ技。鬼ごっこは、相手とルール（制約）を共有することで楽しめるあそび。だから、面白くするために、守るべきという制約心を働かすと面白さ倍増。

仕事には休みがある 子育てに休みはない

毎日毎日毎日、自分時間を削り子ども時間を生きて下さりご苦労さま。こうして、面倒くさい歯磨きや手洗いトイレ・食事の準備片付け、食欲加減、好き嫌い、残食への関わり・風呂の準備、洗濯・ごみの整理・明日の準備・起床等等。日々の生活を支える見えにくい育ての支えが、子どもの『今』（身体・心・頭）の育ちを明日へとつないでられるのです。園と家庭の共育

ともそで

悩みを打ち明けることは 弱さではない
向き合おうとする強さである

悩みを誰かに打ち明けても、打ち明けなくても『悩みと向き合い何とかするのは、親であるあなた自身です』だから、そこに弱い強いはありません。その上で、自分の拙さを表明するのは、戸惑いを伴います。それでも、子どもと私のために、誰かに相談して解決しようと挑む姿は、ある意味で向き合う強さと言えます。園に相談していただくことで、園が育ちます。

主体性が育つのは
自分からすると 誘われてする 相互の作用

主体性とは、他の影響を受けずに行動することだけだと考えておられません。これには、本人のひらめきや快の経験の再現など、他の働きかけなしに行動する『自分から』と、仲間や先生・遊具・遊びの風景の面白さに影響され『誘われて』するの両面があります。そして、この両面は、江戸時代ではなく今の時代環境の条件を土台とし、相互の作用で育まれるのです。

教えようすると 考えるスイッチが OFFになる

考えるスイッチは、どんな時に入りますか。それは、頭の中で『比べる』という状態が起こる時です。つまり、靴はここに入れるんだよ。と教えられその通りにできたらそれはそれでいいのです。ただ、靴をどこに入れたらいいかな。どこに入れる？と問いかけられた時と教えられた時のどちらが、『考えるスイッチをON』にできるでしょうか。問いかける≧教える ONは？

子ども年齢は 親年齢

突然、親になると知らされ『育てられる側から育てる側』への転換。『親なんだから』と攻め立てられるような思いに駆られていませんか。普通、試合本番前にはかなりの練習をします。だから、親になる練習なし『即、親本番』を迎え大変なのが普通です。実年齢でなく親年齢で考え、子どもが親にならせてくれるのです。子どもと共に！私を育ててくれた親も、同じです。

あそびは 学び 学びは あそび やってみたいが 学びの芽

この、あそびが勉強だといっているのは、文部科学省です。小学校国語のねらいは、『話す・聞く・読む・書く』と学習指導要領に書いてあります。では、この4つのねらいは、幼稚園の遊びにはないのでしょうか。1学期、クラスで育てた野菜をピザにして食べたいと相談し合った際、自分たちだけではなく他の人たちにも食べてもらおうとの発案から、絵と文字で表したポスター作製に発展。食べたい先生や他クラスの名前を『文字で書いてもらい』、それを読んでピザを配達した個どもと達と先生と一緒に創ったあそびの事例があります。やってみたい学びの芽が、話す聞くの相談を生み、読み書き表現を引き出し、4つの学びを後ろから引っ張り身につく学び、それが遊びという学習です。注！4つの国語のねらいを達成するために、遊んではいけない。それが、日本の幼児教育なのです。

共感するということは 聞くだけでなく 言う通りにすることでもない 願いを聴き取ることである

共感することを、『相手の言う通りにする』『聞くことね』と誤解し、軽く受け止め、やり方という答えだけを求められる方に出合います。共感の目的は、その子自身が『自分の事なんだと思ひ、背後の願いを見抜き、より良き自分の行動の選取り』を支えることです。大人が諭し、子どもの良い方向を悪気なく指し示したくなりますが、関わる大人が、本人の答えが発見できるような聴き取りを続け、『繰り返して深め』『共に悩み応援する』育ち合いだと考えています。人生のプレーヤーは誰ですか。縁ある人は、あくまでも本番に向き合うわが子の『試合本番と家庭での応援者』です。

